

の天候と関連していたと考えられるのである。

このようなケース・スタディを何例かつみ重ねていけば、たとえ定性的な推論にすぎないものでも、海からの影響の共通性を次第に明らかにしてゆくことができるであろう。

6 会社関係でまとめられた漁況と海況 …… しろざけ関係

高村 佳樹 (極洋捕鯨株式会社)

昨年度のしろざけに関しては近年では極めて良い漁獲をあげた。

1966年	856万尾	1,828T
65年	603	1,159
64年	864	1,790
63年	588	1,214
62年	637	1,355

われわれの漁獲の主体は出来得ればべにざけを重点に考えがちである。しかし昨年はしろざけの混獲割合が多く、そして全期を通じ絶え間なく漁撈していた結果、漁期の短縮にもかかわらず、前述の様な豊漁数字となつた。

そこで昨年度われわれが極山丸船団により操業した時の状態の概略を旬毎の水温傾向としろざけの漁況とから述べてみたい。

先づ出漁前に於ける北洋海域の水帯として

- ① 170° E以西の水温の進展が遅い。
- ② アリューシャン列島南側の水温展開は例年より幾分早目にそして広い様に思われる。
- ③ ベーリング海は割合に低温気味である。

これを前提として着場し、5月下旬はアツツ、コマンドルの南側、中央漁場にて操業が開始された。165° E以西には濁つた低温水帯が大きく存在し、167° E附近でも表面水温3℃以下であり、一方アリューシャン列島南側は4℃以上の水帯を形成していた。殊に50m層の水温で3℃線が170° E附近にあり、この水帯は漁期を通じて殆んど移行せず、7月までも165°~170° Eにはつきり残つていたことは昨年度の最も特異とするところでありその後も両方への大きな漁場移行が見られなかつた主因とも考えられる。

結局5月下旬は中央漁場は表面水温3~4℃、50m層水温3℃前後に於て操業したが南寄りとしろざけの割合が多く、北寄り混獲率3割位であつた。この漁場の北側よりはべにざけが低調気味となつて来たので6月初めブ系べにざけを求めて東方に移動した。

東方海域、列島の南側は中層水温の低目のものが割合南に張出して居ながら表面水温は早目から5℃位であり、6月上旬には6℃が東方から張出して来た。結局期待のべにざけは少なく、むしろしろざけが多く現われ49°~52° Nの間で広く操業した。

次いで同月中旬に再びアツツ島附近に引返したが当時、中央漁場から西方漁場にかけて 50° N以南に於て表面水温 4° Cの進展の前線があり、そこでしろざけを主体とした漁場がやや西寄りまで見られた。

中央漁場に於ける6月中旬の水帯は50m層の 3° C等温線は相変わらず根強く 167° E附近に在り、 4° C線も余り動きが見られなかつたが、表面水温は漸次升温し、 5° C位に於て広く中漁を続けた。たゞ 50° ~ 51° N附近に漁場の途切れがあつた様で、 165° ~ 175° E、 49° ~ 50° N及び 52° N附近では3~5割のしろざけを含む漁況であつた。

この頃に於けるベーリング海は意外の低水温であつた様だ。

6月下旬頃には中央漁場附近も表面水温は相当開け大体 5° ~ 6° Cに覆われたが、50m層水温は 4° C線が幾分西の 170° E附近まで動いた程度で大差なく漁況も変りばえせず広く移動操業しながら、べにざけとしろざけの混獲を続けた。コマンドル北の調整海域も表面水温が 6° ~ 7° Cと進みながら50m層は 2° ~ 3° Cという状態でしろざけ、ます群の漁場となつていた。

7月に入れば全域について表面水温は大体夏季の傾向となり広く分散した漁場活動であつた。

7 1966年北洋漁場におけるべにざけの漁況(2~3の特徴)

花村 宣彦(東海区水産研究所)

1) はじめに

北洋漁場のべにざけの漁況を考察する際にはこの水域に年々来遊するべにざけの主要な幾つかの系統群(または地方別魚群)について、それらの漁業生物学上の諸特徴をまず前もつて認識しておくことが基本的に大切である。

次に掲げる幾つかの主要な系統群については、それぞれの漁業生物学上の特徴について実に沢山のことが色々な面について明らかにされている。しかしそれらの全てをこゝに掲げることは本題の趣旨に沿うこともできないので、こゝでは1966年の漁況の特徴を考察するうえで是非参照しなければならない特徴のみを概略述べておくにとどめる。

主要な系統群とその漁業生物学上の2-3の特徴。

(1) 東カムチャツカ系前期群

- 6月上中旬から下旬にかけて主にカムチャツカの河川に繁殖のため溯上する。
- 5_2 年 6_3 年で成熟するものが多いが、 5_3 年、 6_2 年あるいは 4_2 年で成熟するものもある。
- 産卵年における成熟過程(例として卵巣重量で示す)と生息水温は次のとおり

月 旬	卵巣重量のモードの位置	主な生息水温
4 月 下 旬	20 ~ 40グラム	3.0 ~ 4.0℃
5 月 上 旬	40グラム内外	4.0℃以下